

岐阜農林事務所の普及活動状況

令和2年8月25日現在

今月の重点活動

■スマート農業 **ドローンによる水稲防除を実施**

瑞穂市巣南町の（農）巣南営農組合では、国の「スマート農業加速化実証プロジェクト」において、各種スマート農業機械を活用し、輸出用米の超低コスト生産を目指している。

8月11日と21～23日には、最新機種に変更されたドローンを使用して、輸出用米として作付けされている「ハツシモ」と「にじのきらめき」の防除作業を行った。

当日は、農業普及課の他ドローン製造会社や全農岐阜県本部などが立合い、営農組合の女性従業員が操縦して約20haの水田に農薬を散布しその作業性を確認した。

農業普及課では、防除作業に先立って事前に開催した打合せ会議において防除日程や散布薬剤の助言を行ってきた。

今年度岐阜管内では巣南営農組合を含めて4機のドローンが水稲防除を行う計画であり、さらにその他複数の農業法人でドローンの新規導入が計画されている。農業普及課では作業効率や防除効果の検証を行い、ラジコンヘリに代わる省力・時間短縮防除機として更なる普及を進めていく。



【ドローン防除の様子】

(地域支援第三係・松本 政行)

売れるブランドづくり

■えだまめ **県GAPの内部点検**

県GAPの維持審査が10月に実施されるのを受け、えだまめ部会の県GAP実践者の内部点検が始まった。8月18日より内部点検を開始し、JA部会担当者と連携し、今月中に終了する見込みである。いずれの実践者も取り組みが2年目以降ということで大きな改善は必要ないが、農業普及課では、よりリスクが少なくなるような生産管理に向けて個別提案を行っていく。



【改善提案の様子】

(園芸産地支援第一係・高井 啓)

■玉レタス **栽培講習会が開催される**

岐阜市日野地域では2年前から玉レタスの栽培が行われており、今年度、「日野玉レタス部会」を8名で立ち上げた。意欲的な取り組みにより、今後、「玉レタス」が新たな出荷品目となることが期待されている。

当部会において、8月20日に9月から始まる栽培に向けた講習会が開催された。講習会では、農業普及課から今年から取り組むセル苗の定植作業とその後の管理の注意点および高温対策を中心に、栽培管理について説明した。

引き続き、良品の出荷に向けて支援を行う。



【講習会の様子】

(地域支援第一係・鈴木 郁子)

■守口だいこん **採種作業を実施**

8月3日・6日岐阜市方県において、JAぎふ大根部会守口生産委員会の生産者及び関係者（JAぎふ、岐阜市、農業普及課）16名が参加し、採種作業「種たたき」が行われた。本年は梅雨明けの遅れにより、10日ほど作業が遅れたが、乾燥させた茎から莢を外し、脱穀・風選の作業を経



【莢外し作業】

て、約 50kg の種が収穫された。この種子は種苗会社においてサイジング（選別）を行い、9 月からの播種に向けて準備が進められる。農業普及課は作付け作業に向け、関係機関と連携しながら継続して支援していく。

（園芸産地支援第一係・横田 京子）

■ いちご **合渡支部いちご研修会の開催について**

8 月 25 日、J A 岐阜合渡支店にて合渡支部いちご部会研修会が 25 名の出席のもと開催された。

農業普及課から、9 月上中旬の本圃定植に向け、主に、ハダニの本圃定植後の防除及び天敵放飼のタイミングや、今年度実証する炭酸ガス処理によるハダニ防除について説明するとともに、頂花房の花芽検鏡について、今年の自分の苗の花芽状況等を確認するため、積極的にサンプルを提出するよう促した。

また、J A 担当者から、令和 2 年産のレギュラーパックの量目を変更について、選別標準規格表を配布し説明があり、出席者からは、詰め方に関する質問や要望などが出された。

農業普及課では、今後も定期的の実証ほの情報提供、指導を実施していく予定である。

（園芸産地支援第二係 三和 浩一）



【研修会の様子】

■ ナシ **目揃え・初選果**

8 月 3 日に本巣市梨振興会および岐阜市なし部会で「幸水」の目揃え会が開催された。本年は果樹カメムシ類による果実吸汁被害や多雨により黒星病の発生がみられ、家庭選果を徹底するよう説明がなされた。共選は 5 日より開始され、「幸水」の選果は 8 月 25 日頃まで行われ、その後は「豊水」の選果となる。

長梅雨であったが、収穫前の天候に恵まれ、糖度は 1 2 度以上となっている。

（園芸産地支援第二係 小枝 俊仁・水野 文敬）



【目揃え会風景】

住みよい農村づくり

■ 外来生物駆除 **水田農業の担い手らがジャンボタニシを捕獲**

ここ数年、田植直後の水田において南米からの外来生物であるスクミリンゴガイ（ジャンボタニシ）の食害が目立っている。

稲作農家では植付後の水田に駆除粒剤を撒いたり、浅水とするなどの対策を講じているが、暖冬により越冬数が多く被害が増加傾向にあると共に生息域も徐々に広がっている。

8 月 21～23 日には、本巣市水田農業担い手協議会が中心となりジャンボタニシの駆除活動が行われ農業普及課もこの活動に参加した。当日は担い手農家や農業ボランティア、関係機関職員ら 36 名が参集し網とバケツを手にして、捕獲作業を行った。

これからも農業普及課はジャンボタニシの対策指導や捕獲作業に協力し、被害の撲滅を図ってゆく。

（地域支援第三係・松本 政行）



【捕獲作業の様子】